# 2012-2013 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 9月

作成者: 生水 莉映 作成日: 2012.10.01

皆様、初めまして。2012 年度フィンドレー大学・福井県奨学生として、オハイオ州フィンドレー大学にて学ばせていただけることになりました、生水莉映と申します。2012年8月中旬から2013年5月までの、約9か月間という限られた期間の中で、日本ではできないような貴重な経験をフィンドレー大学で積んでいきたいです。また、将来、フィンドレー大学での経験を生かしながら福井県の教育に貢献できればと考えております。

この報告書を通して、皆様にアメリカでの生活や異文化体験に関して、またフィンドレー大学・福井県奨学生制度に関して興味をもっていただけたらと感じています。今回の報告書では、授業に関して、フィンドレー大学での生活



に関して、また松田総領事表敬訪問に関して等報告したいと思います。

#### <授業について>

日本の大学とは違い、アメリカの大学は 8 月中旬から新年度が始まります。フィンドレー大学は、8 月中旬~12 月中旬までが Fall semester(秋学期)、1 月上旬~5 月上旬までが Spring semester(春学期)に分かれています。また、アメリカの学生に交じって様々な分野の授業を受ける学部生か、他国からの留学生とともに英語のスキルを学ぶ IELP の学生のどちらかになることができます。私は、英語を使って何かを学びたいという思いを持っていたので、学部生の授業を選択しました。

今回の秋学期では、リーディング、ライティングといった英語の授業に加え、異文化理解、演劇、スピーチの、計5つの授業を受けています。リーディングの授業は週に1回だけですが、それ以外の授業は週に2、3回あります。秋学期が始まってすぐのころは、アメリカの学生の授業中の発言の多さや、1回の授業の宿題の量に圧倒され、とてもショックを受けました。日本からの留学生ではあるものの、授業中は学部生の一人としてみなされます。アメリカの学生に肩を並べるくらい授業中に積極的に発言をしたり、宿題をこなしたりし、学部生の学生の一人として、認めてもらえるよう努めていかなければいけないと感じています。また、同じ授業を受けているアメリカ人の学生とも少しずつ仲良くなることができています。ぎこちない英語しか使えない私にも、何のためらいもなく話しかけてくれ、仲良くしてくれるアメリカの学生と接し、『多民族国家』のアメリカを感じることができました。

#### <アメリカでの生活について>



フィンドレー大学には、Student House と呼ばれる
ー軒家が立ち並び、多くの生徒が1つの家をシェア
しながら住んでいます。私は、代々受け継がれてい
る、日本語を学んでいるアメリカの学生と日本から
の留学生のための一軒家に住んでいます。最初は、
英語でアメリカ人と生活することに不安を感じてい
ました。しかし、英語と日本語の両方を用いて、日

常生活に関しても、勉強に関しても、お互いに助け合いながら生活しています。話す言語や文化の違いはあるものの、毎日共に笑ったり、真面目な話をしたりできる友達ができ、仲良くなるのに言葉や文化の壁はあまり関係ないということに気付きました。

# <松田総領事表敬訪問について>



9月中旬に、福井県と埼玉県からの日本人留学生と 共にデトロイトにある日本領事館に訪れ、松田総領 事にお会いしました。松田総領事は福井県出身で、 福井県にとても関わりの深い方です。松田総領事は 知識がとても豊富で、色々な分野に関するお話をし てくださいました。福井県の話をしてくださったり、 私たちが現在住んでいるオハイオ州に関しても教え ていただいたりしました。福井県出身で、世界規模

で活躍している松田総領事とお会いし、とても刺激を受けました。松田総領事表敬訪問後、 改めて日々の努力、そして自ら積極的に行動することの大切さを感じました。とても有意 義な時間を過ごすことができました。

#### <約1か月半をふり返って>

8月中旬から9月は、とても慌ただしい1か月半となりました。授業以外の時間には、アメリカの小学校に行き、紙芝居を行ったり、教育系のクラブや韓国語クラブに参加したりなど、とても充実した日々を過ごしています。また、様々な行事に積極的に参加し、アメリカ人の学生を含め、様々な国の学生と仲良くなることができました。このような体験ができるのも、フィンドレー大学への留学の機会を与えてくださった皆様のおかげです。



本当に感謝しています。この留学の機会を一日も無駄にしないように、これからも積極的 に活動し、様々な体験をしたいと思います。

### 2012-2013 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 10月

作成者:生水 莉映

作成日:2012.11.04



皆様、こんにちは。フィンドレー大学に来て、2 か月半が経ちました。フィンドレー市にもだんだんと冬が近づいており、福井県の12月のような気候になってきています。10月の終わりには、雪も降りました。また、毎日がとても充実しており、Fall Semester も信じられないスピードで半分以上が終わってしまいました。今回の報告書では、Fall Break、Genki Kids、Romney氏の講演会についてお話ししたいと思います。

#### <Fall Break について>



10月の上旬には、4日間の Fall Break がありました。私は、この Fall Break を利用し、インディアナ州にあるアメリカ人の友達の家に、ルームメイトの友達と訪問させていただきました。Fall Harvest Festival という Halloween に向けたお祭りに行き、かぼちゃに絵を描いたり、Cone Maze というとうもろこし畑の迷路に挑戦したりしました。インディアナ州で一番大きな公園に行ったときには、公園の大きさに衝撃を受け、

アメリカの広さを再度認識しました。その他にも、お菓子を作ったり、買い物に行ったりなど、ゆったりとした時間を過ごすことができました。

### <Genki Kids について>

Genki Kids というプログラムに参加し、地元の小学校に通っているアメリカ人の子どもたちに、週に2回日本語を教えています。私は、初めて日本語を勉強する子どもたちを担当しています。最初の回で、「なぜ日本語に興味を持ったのか」と尋ねてみたところ、「日本のゲームが好きだから。」という意見や、「ポケモンが好きだから。」という意見が出てきました。「多民族国



家」のアメリカで、子どもたちは様々な文化に触れる機会がたくさんあると思います。そ のような中で、ゲームやアニメなどを通して、日本や日本語に興味を持ってくれる子ども たちがいることを本当に嬉しく感じました。

毎回の活動では、歌やゲームを通して、あいさつや自己紹介、食べ物の名前など、様々な日本語を教えています。パワフルなアメリカの子どもたちに圧倒されそうになるときもありますが、毎回の活動を子どもたちと一緒に楽しんでいます。また、一緒なグループのアメリカ人の学生は、子どもたちの意見を引き出したり、子どもたちを盛り上げたりなど、子どもとの接し方がとてもうまく、そのような面でもとても勉強になるプログラムです。

### <Romney 氏の講演会について>



今年は、アメリカ合衆国大統領選があります。 それに伴い、10月の終わりに、フィンドレー大 学の学内で Willard Mitt Romney 氏による講演 会が開かれました。Romney 氏は、現在大統領 選に出馬しています。Findlay 市は、特に共和 党支持者が多いそうで、共和党である Romney 氏の講演会にたくさんの方が訪れていました。 Romney 氏が1つひとつの政策を発表する度に、 会場から大きな歓声が上がり、テレビで見るよ

うな光景に圧倒されてしまいました。アメリカでは、政治に関する関心度が非常に高く、「Romney 氏を支持します。」といった内容の看板が飾られている家や、政治に関するステッカーが貼られている車をよく見かけます。政治に対する関心度の高さも日本との大きな違いだなと感じました。11月6日には、正式にアメリカ合衆国大統領が決まります。その時に行われるスピーチもとても楽しみです。

## <10月をふり返って>

Findlay 大学には、様々な国に触れる機会がたくさんあります。10 月は特にそのような機会が多く、韓国人が主催するダンスパーティに参加したり、ベトナムからいらっしゃった教授の講演会に参加したりしました。また Halloween では、コスチュームに着替えて Halloween Party に参加したり、

"Trick or Treat!"と言いながら Findlay 市内を歩いたりしました。日本ではなかなか経験することがで

527

きないことをたくさん経験し、たくさんの思い出ができました。

### 2012-2013 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 11月

作成者:生水莉映

作成日:2012.12.02

こんにちは。留学生活もあっという間に 3 か月半が過ぎ、秋学期も残り 2 週間ほどになりました。こちらに来て、1 日がとても短く感じるようになりました。毎日充実した日々を過ごせている証拠だと思います。今回の報告書では、Intercultural Potluck party、Family Night、Math Night、そして Thanksgiving break についてお話ししたいと思います。

#### <Intercultural Potluck Party について>



異文化理解の授業の一環で、それぞれの国の食べ物を持ち寄って Potluck Party を開きました。アメリカ、サウジアラビア、中国、日本の料理が並べられ、テーブルが色鮮やかに飾られていました。今回の Potluck Party を通して、様々な国の食文化を体験することができました。特に印象的だったのが、サウジアラビアの料理です。日本では、あまりサウジアラビアの料理

を食べたことがなかったのですが、とてもおいしい料理ばかりでした。様々な国からの留学生が多くいる Findlay 大学ならではの Intercultural Potluck Party となりました。

## <Family Night について>



先月の月例報告書でも報告させていただいた、アメリカの子どもたちに日本語を教える Genki kids の活動で、最終発表会「Family Night」が行われました。私たち日本人の学生とアメリカ人の学生が、今まで子どもたちに教えた全ての日本語を用いて発表会を行いました。最初は日本語を全く知らなかった子どもたちに、全9回の活動を通して、あいさつや自己紹介の仕

方、歌、食べ物の名前など、たくさんの日本語を知ってもらうことができました。「また Genki Kids あったら来たい?」と尋ねてみたところ、「絶対に来たい!」と答えてくれる子 どもたちもいました。このように子どもたちの心に響く活動ができてとても嬉しく思います。また、今回の Genki Kids の活動を通して、日本語や日本の文化を外国の方に知ってもらう楽しさに気づくことができました。 Genki Kids の活動以外にも、日本語や日本の文化を教える機会があるようなので、積極的に参加したいと思います。

### <Math Night について>



Findlay 大学の近くにある Jacobs 小学校にて、Math Night というイベントが行われました。このイベントは、小学生の子どもたちが算数で遊ぶことを目的として毎年開かれています。算数を使ったゲームや工作を中心に、いくつかのブースがあり、子どもたちは自由にそれらのブースをまわることができます。私たち日本人の学生も、アメリカ人の学生とグループに

なって、数字の 1~5 を日本語で教えるブースを作りました。ただ日本語での 1~5 の言い方を教えるだけでなく、似ている発音の英単語と関連づけたり、それらの英単語に伴った動作をつけたりなど、小学生にも分かりやすいように工夫をしました。体をめいっぱい使って日本語を学ぶ、アメリカ人の子どもたちがとても印象的でした。

### <Thanksgiving Break について>



11月の第4木曜日は、Thanksgiving Day という 祝日になっています。Thanksgiving というのは感謝 祭のことで、昔アメリカにきた移住者が食べ物や病気に困ったときに、先住民に助けられ、お礼にご馳走を ふるまったことが由来とされています。この祝日に合わせて、Findlay 大学でも 5 日間の Thanksgiving Break がありました。私は、アメリカ人のルームメ

イトの家に訪問させていただきました。Thanksgiving Day の前日には、彼女と彼女のお母さん、私とでアップルパイとパンプキンパイを作りました。これらは、Thanksgiving を代表する料理です。Thanksgiving Day 当日には、それらを持って彼女のおじさんの家に行き、親戚一同でお食事会を開きました。テーブルの上にはそれぞれの家族が持ち寄った、七面鳥やマッシュポテト、パンプキンスープなど、多くの種類の料理が並べられ、食べきれないほどの量がありました。また、初めて会ったにも関わらず、たくさんの親戚の方が「ようこそ!」と言って私を受け入れてくださり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。多くのおいしい料理と気さくな人たちに囲まれ、楽しい Thanksgiving Day を過ごすことができました。







# 2012-2013 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 12月

作成者:生水 莉映

作成日:2013.01.19



こんにちは。12月は、中旬に秋学期の最終 試験がありました。最終試験までは、毎日長 時間勉強に向き合い、今までで最も忙しい時 期でした。最終試験が終わってからは3週間 の冬休みがありました。冬休み中は、アメリ カやカナダの4都市に旅行に行き、とても刺 激的な3週間を過ごすことができました。今 回の報告書では、秋学期のふり返り、そして 旅行についてお話ししたいと思います。

#### <秋学期をふり返って>

アメリカに来て初めて過ごした秋学期は、とても思い出深いものになりました。アメリカの授業スタイルに衝撃を受けた秋学期が始まってすぐの頃を、今でも鮮明に覚えています。日本では「受け身」で授業を受けてきた私にとって、授業中に積極的に発言するアメリカ人の学生の姿、そして日々の宿題の多さはカルチャーショックに値するものでした。また、「英語」という壁はとても高く、英語ができなくて悔しい思いをすることも数えきれないくらいありました。しかし、人生一度きりしかない留学のチャンス、絶対に無駄にしたくないという思いで、勉強だけでなく、様々なイベントにも積極的に取り組みました。そのおかげで、授業やイベントを通して、アメリカ人の学生だけでなく、様々な国からの学生と仲良くなることができました。秋学期が終わった今、秋学期の自分自身にほぼ後悔は残っていません。このような秋学期を過ごすことができ、本当に満足の気持ちでいっぱいですし、日本やアメリカで支えてくださった周りの人々に感謝の気持ちでいっぱいです。春学期も同様、勉強、イベント、様々なことに全力で取り組んでいきたいと思います。



お世話になった 先生方と、記念に 写真を撮りました。

#### <冬休み中の旅行について>

最終試験後の、約3週間の冬休みをめいっぱい利用し、カナダのバンクーバー、トロント、そしてアメリカのワシントンD.C.、ニューヨークに行ってきました。



「バンクーバー」 初めに、バンクーバーの友達のもとへ 11 日間行きました。バンクーバーはアジア人の多さが印象的です。道を歩いている間にも聞こえてくる日本語、そしてダウンタウン中にあふれる日本食レストランにとても驚きました。映画館で『となりのトトロ』の英語吹替版を見ることもできます。フィンドレーとは全く違う雰囲気で、まるで日本にいるようでした。バンクーバーで食べたプーティンというカナダ料理がとてもおいしく、おすすめです。

「ワシントン D.C. 次に、ワシントン D.C に行ってきました。ワシントン D.C.は、アメリカの首都ということもあるせいか、街中が高級な雰囲気だったように感じます。国立航空宇宙博物館、国立アメリカ歴史博物館、国会議事堂、ホワイトハウスなどを観光しました。なかでも、国立アメリカ歴史博物館は印象に深く、第二次世界大戦をアメリカ側の視点で学ぶことができました。また、実際のベルリンの壁も展示されており、感慨深いものがありました。



国会議事堂前にて



トロント ワシントン D.C.の後は、トロントに行きました。日本の大学の教授が、冬休みで同じ時期にトロントに帰郷していたこともあり、家に招待していただきました。久しぶりにあった教授と会話が弾み、楽しいひと時を過ごすことができました。2日目には、ナイアガラの滝にも行きました。とても大きく、神秘的な滝に圧倒されました。今度は夏に行って、違うナイアガラの滝も楽しんでみたいと思いました。

**ニューヨーク** 最後に、年越しに向けて、ニューヨークに行きました。ニューヨークでは、エンパイアーステートビルディング、国際連合、自由の女神など、たくさんの観光名所を訪れることができました。中でも、心に残ったのは、同時多発テロで標的になったワールドトレードセンターです。現在は建設中で、被害にあった消防士を称えた記念碑もあり、思わず言葉を失ってしまうような、生々しい



傷跡が今でも残っていました。年越しの瞬間は、タイムズスクエアで迎えました。たくさんの人々とぎゅうぎゅうつめになって、年越しのカウントダウンを楽しみました。TVで見る光景を、自分自身で体験しているのが信じられませんでした。

### 2012-2013 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 1月

作成者: 生水莉映 作成日: 2013.02.10



こんにちは。2013年が始まってあっという間に1か月が過ぎてしまいました。こちら、フィンドレー市は、雪が降ったり、15℃まで気温が下がったりと、福井県よりも寒い気候が続いています。風もとても冷たく、まさに身も凍るような寒さです。しかし、そんな寒さの中でも、体調を崩さず健康に過ごすことができています。今月は、Martin Luther King, Jr. Day、そして春学期についてお話ししたいと思います。

#### <Martin Luther King, Jr. Day について>

毎年1月の第3月曜日は、Martin Luther King, Jr. Day として祝日になっています。Martin Luther King, Jr. さんは、別名『キング牧師』としても知られており、アメリカの人種差別、特にアフリカ系アメリカ人の人種差別撤廃に貢献した、アメリカの歴史上重要人物の一人です。また、"I have a dream. (私には夢がある。)"のスピーチ演説者としても有名で、ノーベル平和賞も受賞されています。この祝日に伴い、フィンドレーでも記念行事が開かれました。私も、日本人の友達と参加しました。教会に集合した後、約50人のフィンドレー市民と一緒に、ダウンタウンを練り歩きました。目的地に着くと、全員で手をつないで輪になり、お祈りをしました。それから教会に戻り、いくつかの催し物が開かれました。フィンドレーの学生が司会したり、小学生や中学生、高校生が歌や劇をしたりなど、フィンドレー市全体で





Martin Luther King, Jr. Day をお祝いしました。途中には、Martin Luther King, Jr.の子孫である Andrea King さんによるスピーチも聞くことができました。日本では、歴史上の貢献者をこのようにお祝いする機会はなかなかありません。アメリカは、日本に比べて、クリスマスや Martin Luther King, Jr. Day など、祝日をとても大事にしている様子が伝わってきます。日本ではできない経験を、また一つすることができました。





#### <春学期について>

1月7日から春学期が始まりました。秋学期は全ての授業でAの成績をとることができ、とても嬉しかったです。今学期は、ライティング、英米文学、コミュニケーション学、心理学、そして教育学の授業を履修することにしました。秋学期以上に読んだり書いたりする機会が増え、英語に触れる機会もよりいっそう多くなりました。とても喜ばしいことです。特に英米文学の授業では、春学期を通して5冊の小説を読むのですが、難しい表現が多く、小説には書かれていないことを読み取るのに苦戦しています。しかし、その分とても勉強になります。その他の授業も難しく、大変ですが、同じ授業を履修しているアメリカ人や韓国人の友達と助け合って頑張っています。同じ授業を履修していない友達とも、AMUという勉強スペースで共に勉強したり、励まし合ったりしています。春学期も秋学期に引き続き、頑張ろうと思います。

秋学期からの友達とも、よりいっそう仲を深めることができています。1月は、サウジアラビア人の友達と、韓国人の友達が、それぞれの国の料理をふるまってくれました。どちらの料理もとてもおいしかったです。残り3か月の留学生活ですが、よりいっそう仲を深め、国籍関係なく、生涯にわたる友達になることができたらいいなと思っています。勉強面ももちろんですが、このような面でも思い出に残る春学期にしたいです。



アラビア料理



韓国料理

## 2012-2013 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 2月

作成者:生水莉映

作成日:2013.03.17

こんにちは。お昼でさえも氷点下を下回るくらい寒かった冬も、最近ではだんだんと暖かさを感じられるようになってきました。春がもうすぐそこまで近づいてきています。今まで、夏、秋、冬とこちらで過ごしてきましたが、日本ではみられないそれぞれの気候の一面を見ることができました。こちらでどんな春が見られるのか、とても楽しみです。

さて、今回の報告書では、2月に行われた Japanese Program Party、Black Tie Affair、そして International Fashion Show についてお伝えしたいと思います。

### <Japanese Program Party について>

フィンドレー大学では、毎月1度、Japanese Program Party が開かれています。これは、フィンドレー大学の日本人の学生 と、日本語を専攻している学生以外にも、教授や親御さんまで、色々な方が参加する発表会のようなものです。この Japanese Program Party 内でお時間をいただき、福井県についてプレゼンテーションを行いました。私自身、福井県は大好きですが、いざ発表するとなると、聞いてくださる方々に福井県に来たいと思ってもらうような魅力的なプレゼンテーションにするために、何を発表したらよいのか分からなくなってしまいました。しかし、同じ福井県出身の日本人の学生にアドバイスをもらい



ながら、福井県の基本情報以外に、福井県のおいしい食べ物、福井県の小学生と中学生の高い学力と体力、福井県のいいところインタビュー(福井県に住んだことのある知り合いのアメリカ人にインタビューを行いました。)、そして福井県の幸福度全国一位について発表しました。プレゼンテーションが終わった後、福井県に来たいと思ってもらえる発表ができたか不安でしたが、色々な方から「発表よかったよ、お疲れ様。」と言ってもらえたので、とても嬉しかったです。福井県代表の奨学生としての任務を一つ果たせたような気がします。このような機会を与えていただいた先生にはとても感謝しています。また、もっと福井県を広めていけるような活動をしたいと思いました。

### <Black Tie Affair について>

年の一度のフォーマルなダンスパーティーが2月に開かれました。Black Unionというフィンドレー大学の黒人の学生が中心となって活動しているクラブが主催となり、このダンスパーティーを行ってい



ます。男子学生はスーツ、女子学生はドレスを着て参加します。 パーティー中には、ダンスを踊る時間以外にも、投票によって決められた、学年ごとの King (美男) や Queen (美女) の発表があり、とても盛り上がりました。なかなか見ることができない友達のスーツ姿や、ドレス姿を見ることもでき、とても楽しいダンスパーティーでした。このようなダンスパーティーが開かれる日本の大学はなかなかないと思います。このような点で、カルチャーの違いを感じられるイベントでもありました。



#### <International Fashion Show について>

フィンドレー大学の留学生にとって、大きなイベントの一つである、International Fashion Show が開かれました。今年のInternational Fashion Show のテーマである『カルチャーショック』をもとに、ベトナム、アメリカ、サウジアラビア、アフリカ、パキスタン、中国、日本の国々がファッションを披露しました。

私たち日本は、着物や浴衣、アニメのコス プレ、そしてロリータファッションを披露し ました。着物や浴衣の伝統的なファッション スタイルと、コスプレやロリータの現代的な ファッションスタイルの差に、私自身も改め て驚いてしまいました。着物や浴衣を見たこ とがある他の国々の学生はいると思います。 しかし、コスプレやロリータファッションは、 他の国々にはなかなかない現代のファッシ ョンスタイルなので、日本人以外の学生が 「カルチャーショック」を感じてくれたので はないかと思います。私自身は、6人くらい の日本人と時代劇のようなものを披露しま したが、なかなか好評だったようです。練習 は大変でしたが、頑張ったかいがありました。 また、日本以外の国々のファッションスタイ ルもすごく興味深かったです。伝統的な歌や







ダンスなどを披露した国もあり、ファッション以外のことも楽しむことができました。

### 2012-2013 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 3月

作成者:生水 莉映

作成日:2013.04.01



こんにちは。春学期も半分が過ぎ、留学生活もいよいよ終わりを迎えようとしています。3月のフィンドレー市は、暖かい日も多く、福井県よりも寒かった冬に比べると、過ごしやすいと感じる日も多くなってきました。

毎月の報告書にこちらで撮影した風景の写真を載せています。(2月の報告書には載せていません。) 土地が広く、高い建物が少ないアメリカでは、季節

によって、また時間帯によって、全く違った空の景色を楽しむことができます。

さて、今回の報告書では、春休みのカナダ旅行、ボランティアワーク、そして LiNK の 活動についてお話ししたいと思います。

## <カナダ旅行について>

CN タワー付近にて



10 日間の春休みを利用し、カナダのトロント、モントリオール、ケベックに行ってきました。最初に、トロントに向かいました。トロントに着いて驚いたことは、色々な人種の人々を見かけたことです。トロントは多くの移民を受け入れているそうで、ダウンタウンには、チャイナタウンやリトルイタリー、コリアンタウンなどと呼ばれる、それぞれの国独自の商店街がいくつかあります。私はその中の一つのチャイナタウンを訪れ、本場の中華料理を楽しみました。また、カナダの名門大学として有名なトロント大学も訪れました。地区全体がトロント大学といっても過言ではないくらいとても大きく、圧巻でした。

トロントを出発し、モントリオールに向かいました。 モントリオールは、トロントとは一見変わって、街中がフランス語で溢れかえっていました。フランスとはとても離れている位置にありますが、世界で2番目に大きいフランス語圏の都市と言われているそうです。町並みもヨーロッパ風で、まるでフランスにいるかのように感じました。歴史上、フランス語を話す人々が多いそうですが、英語が主要言語の北米で今でも、自分たち独自の街



ノートルダム大聖堂にて

や歴史を自分たちの手で守っているモントリオールの人々の精神を感じることができたような気がします。

#### 高級ホテル付近にて



モントリオールと同じ州にあるケベックも訪れ、モントリオールとはまた違った雰囲気を楽しみました。ケベック州でも、主要言語のフランス語の看板を多く見かけました。高級ホテルとして有名なフェアモント・ル・シャトー・フロントナックに行きましたが、まるでお城のようで、とても見応えがありました。ケベックは、急な斜面が多く、何度も坂や階段を上ったり下ったりしました。しかし、階段を観光地として紹介していたり、フニ

キュラーというケーブルカーが設けられていたり、地理を生かした観光名所がいくつかありました。街全体の雰囲気もおしゃれで、個人的に一番好きな観光地でした。機会があればもう一度訪れたいです。

春休みのカナダ旅行を通して、カナダの様々な面を楽しむことができました。12 月の冬休みに訪れたバンクーバー、トロント、モントリオール、ケベック、それぞれの都市で異なる雰囲気を感じ取ることができました。カナダは英語が主要言語の都市と、フランス語が主要言語の都市があるということは学校の授業で習ったので知っていましたが、実際訪れてみると、想像以上にそれぞれの都市で言語、雰囲気、人々が異なり、授業だけでは分からなかった実際のカナダを知れたような気がします。異文化のたくさんつまったカナダ旅行は、とても充実したものになりました。

#### <ボランティアワークについて>

秋学期から、Service Ambassador Program というボランティア活動に参加しています。これは、フィンドレー大学のアメリカ人の学生と留学生がペアとなり、フィンドレー市内で週に1回ボランティアを行うプログラムです。私は、秋学期から Birchaven Village という老人ホームに行き、入居されているお年寄りの方々とお話をする機会をいただいています。このプログラムを通して、ボランティア活動に興味をもつことができたのはもちろんのこと、アメリカでのボランティアの必要性、日本でのボランティアの必要性、そして将来の職業にこのプログラムをどのように生かせるかを考えることができました。





#### <LiNK について>

私のルームメイトが LiNK という団体のリーダーということもあり、LiNK の講演会に参加しました。LiNKというのは、"Liberty in North Korea"の略で、北朝鮮から脱国した人々を支援する団体です。日本にいたとき、北朝鮮から脱国する人がいることは何度かニュースで耳にしたことがあるので知っていましたが、このような団体があることは知りませんでした。講演会を通して、脱北者がどのように脱国したのか、そして現在どのように生活しているのか、また LiNK がどのように脱北者を支援しているのかを知ることできました。講演会が終わった後に、演説者の方とお話する機会があったのですが、なぜ LiNK の一員として活動されているのか尋ねたところ、「これは北朝鮮だけの問題じゃない。世界全体の問題なんだ。だから僕はこの





活動に参加している。」とおっしゃっていました。世界の一員として活動していらっしゃる 演説者の方の姿に、とても感銘を受けました。正直なところ、今まで北朝鮮と日本の関係 は国家間の問題だと考えていましたが、この LiNK の講演会に参加したことで、北朝鮮と の問題、そして北朝鮮だけでなく世界の様々な問題を、個人でも真剣に考え、なにかでき ることがあれば微力でも行動していかなければならないということに気づくことができま した。

# 2012-2013 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 4月

作成者: 生水 莉映 作成日: 2013.05.21



こんにちは。10か月の留学生活が終わり、これが最後の報告書となります。4月は今学期のファイナルテストに、たくさんのイベントに、最終月にふさわしい忙しさになりました。今月の報告書では、フィンドレー市内の小学校と、フィンドレー大学で行われたそれぞれのインターナショナルナイト、卒業式について報告したいと思います。

# <Wilson Vance 小学校でのインターナショナルナイトについて>



フィンドレー大学の近くにある公立の小学校で、3 年生から 5 年生中心のインターナショナルナイトが 開かれました。一般の私たちにも開かれているイベン トです。10 か国ほどのブースがあり、それぞれの国 の子どもたちが各国について紹介したり、各国の食べ 物を提供したりしていました。いくつかの国の子ども たちは、伝統衣装を着ていました。日本のブースも設 けられており、日本人の子どもたちが、お客さんに日

本の紹介をしたり、料理を提供したり、ゲームを楽しんでもらったりしていました。

このイベントを通して印象に残ったことが 2 つあります。まずは、アメリカの学校ならではのイベントだということです。様々な国々出身の子どもたちが、一つの会場に集まって、インターナショナルなイベントを開くということは、ほぼ日本人しか住んでいない日本でできることではなかなかないと思います。子どもたちからアメリカの「人種のサラダボウル」の一面を教えてもらいました。2つ目に、そのイベントにたくさんの日本人児童が

いたことです。オハイオ州にはたくさんの日本企業があり、日本人もたくさんいることは知っていましたが、フィンドレー大学ではあまり日本人を見かけません。しかし、フィンドレー大学の外に出てみると、Wilson Vance 小学校だけでもたくさんの日本人がおり、オハイオ州と日本のつながりの強さを感じました。



#### <大学で行われたインターナショナルナイトについて>

大学でもインターナショナルナイトというイベントが開かれました。10 か国以上の国々がブースを設け、とても活気がある会場でした。丸 1 日イベントが開かれていたので、全部の国のブースに行くことができ、ダンスを教えてもらったり、ゲームをしたりして楽しみました。食べ物を提供する時間になると、会場が一般の人や学生でいっぱいになり、いくつかの国では行列もできていました。

夜になると、各国のショータイムがありました。私は、日本と韓国のショータイムに参加しました。日本のショータイムでは、盆踊りやAKB48、ソーラン節など、伝統的な音楽と現代の音楽を融合させたショーを行いました。韓国のショータイムでは、ナンタという太鼓に挑戦したり、ダンスを踊ったりしました。2つのショータイムに参加したので、練習がとても大変でしたが、終わった後は達成感でいっぱいでした。



日本のブース



会場全体の様子

# <卒業式について>

ファイナルテストが終わった 2 日後に卒業式が開かれました。私も大学院生の卒業式に参加しましたが、日本のような厳粛な雰囲気ではなく、口笛を鳴らす人がいたり、卒業生の名前が呼ばれると保護者の方が立ち上がったりと、パーティーのような雰囲気でした。卒業生は黒いローブと帽子をかぶって出席します。一人ひとりの名前が呼ばれ、檀上に行くと、日本のような卒業証書ではなく、首に巻くネックウォーマーのようなものをもらいます。これが卒業したという証になるそうです。卒業式が終わった後は、フィンドレー大学の象徴である門をくぐります。入学式の時と卒業式の時にしかくぐりません。くぐった後の卒業生の顔はとても晴れやかなものでした。





### <留学生活を終えて>

約 10 か月間のフィンドレー大学での留学生活があっという間に終わってしまいました。この 10 か月間では、数えきれないほどたくさんのことを学びました。その中でも、仲の良い友人ができたことはとても心に残っています。最初は、つたない英語で日本人以外の仲の良い友達ができるかどうか正直とても不安でした。しかし、つたない英語でも伝えたいという気持ちや相手をもっと知りたいという気持ちを持てば、言葉の壁、考え方の違いを乗り越えて仲良くなれることが分かりました。また、他の文化を持つ人々からたくさんの知識、考えを得ました。日本にしか住んだことがなかった私にとって、世界中の色々な国の人々から教えてもらったことは新鮮なことばかりで、世界をもっと知りたいという思いが強くなりました。

福井県フィンドレー大学の奨学生として、フィンドレー大学に留学させていただき、また 8 月から今まで報告書を読んでいただき、本当にありがとうございました。将来、教師を目指しているのですが、子どもたちに世界には知らないことがたくさんあること、そして仲の良くなれる友達が世界中にいるということぜひ教えていきたいと思います。